

大久野通信 vol.24

山の恵み



観測史上初という言葉が印象的な猛暑の夏、大久野倶楽部の活動拠点は雨が全く降らず作物が悲鳴を上げています。その一方で雑草は元気、恒例の草刈りは欠かせません。山陰は比較的涼しいですが、畑地では冷たい経口補水液が必需品です。

INDEX

- ・ミウガ谷
- ・悩ましい住人
- ・今後の展望

ミウガ谷

活動拠点周辺は、夏場熊笹や烏瓜などが鬱蒼と生い茂ります。茂みの中には、ウドやタラ、ミウガといった山菜もところどころに自生しています。草花がまだ休眠中の真冬、ミウガの根をなるべくそのままに整備を試みていました。それが功を奏したのかこの夏はミウガが広範囲に繁茂し、まさに「茗荷谷」と化しています。夏の里山は、冬場の整備次第で風景が変わると実感しました。干ばつで畑の作物は危機的ですが、ミウガの成育域は適度な日陰と湿気があり絶好調。収穫したミウガを、試しに地元の無人販売所に出して頂きましたが即完売したそうです。格安だったこともあります、周辺のミウガは干ばつの影響で不作なのだそうです。顧客の満足を得て対価を頂く、山の恵みを通して商売の基本を改めて学んだ気がします。



整備直後の風景



夏場の風景

悩ましい住人

昨年実証畑では、半年以上手塩に掛けたサツマイモが収穫直前に姿を消しました。エサを求めて里に下りてくるイノシシの仕業です。最近は月の輪熊の出没情報も頻発する様になりました。いわゆる獣害は、農業で生計を立てている方々であれば死活問題です。保護なのか駆除なのか議論が別れるところですが、狩猟解禁が11月からなので被害を受けても成す術無しです。それが理由で農業を諦めた先輩たちの話もよく耳にします。深刻化するこの課題に対し、環境省は有害鳥獣の通年駆除を認めています。活動拠点周辺も、「被害防除対策によっても被害等が防止できないと認められる」地域とされ、許可を受けた方による捕獲が可能となりました。「防御対策を施すこと」が前提なので、畑全周には鉄柵と電気柵を施しました。それゆえか現時点まで被害は受けていませんが、こうした設備投資が難しい周辺の畑では依然被害が発生しています。許可が下り箱罟を仕掛けて頂いた8月上旬、早速イノシシが掛かりました。解体までの一部始終を初めて拝見し、衝撃的な盆休みの始まりとなりました。



全滅したサツマイモ畑



捕獲されたイノシシ

今後の展望

猛暑日の連続記録が今年も更新されましたが、過酷では無かった嘗ての夏はもう戻ってこないのでしょうか。猛暑や渇水、更に害獣被害と農業を取り巻く環境変化が、地球温暖化によってもたらされるのであれば看過できません。伐採竹で作った竹炭が「バイオ炭」として品質証明されたことで、カーボン固定は意外と身近な活動でも可能なのだと実感しました。ただ、このバイオ炭で温暖化ガス排出量を本気で減らすには・・・この考え方が広く浸透し多くの方々に取り組んで頂く必要があります。「地球を救う園芸キット」の企画には、そんな願いが込められています。「千里の道も一歩から」まさにそんな思いで活動を続ける、大久野倶楽部です。